

4. 歩兵第八十九聯隊

五月二十九日運玉線南北の線出發左記順序に従ひ撤退し五月三十日興座に集結す

聯隊本部ⅠⅡは南風原・山川・東風平村經由東風平村に一日潜伏の上三十一日興座に集結す

Ⅲは聯隊の收容部隊として首里南方に吉家⁸²高地を占領し收容したる後興座に集結す

2. 歩兵第二十二聯隊

五月二十八日第二收容部隊として現陣地出發同夜友寄附近饒波川の線を占領す

五月三十一日頃より敵は逐次退却し來り各大隊共に鏖戦したるも敵は逐次迂回溢出しつつあり

聯隊は一部を殘置して眞壁に轉進し兵團予備となるべき命を受け六月一日夜Ⅰを志多伯に殘置し七日眞壁着予備隊となる

Ⅰは志田伯に於て優勢なる敵の攻撃を受け善戦能く敵の銳鋒を挫きたるも遂に六月七日夕敵の重圍に陥り漸く之を脱出して八日夕眞壁に轉進す

3. 歩兵第三十二聯隊

聯隊は約³の兵力を陣地に殘置し五月二十九日夕撤退す此の時敵は既に松川方面より侵入し舊城跡を占領せるものありしも能く之を突破し予定の如く同日夕Ⅰを以て國場川の線本部附近⁴を以て⁴附近を占領す

聯隊本部は津嘉山に位置す

右翼嘉屋武神里附近には^{62D}、右翼豊見城附近には海軍部隊あり

敵は五月三十日頃より主力(戰車を伴ふ)を以てⅠ方面に一部を以て⁴方面に逐次進出し來り第一線部隊能く戦苦斗多大の戦果を收め予定の如く大城森、賀敷附近に集結を完了す

三島尻地區到着より作戰終了迄

三十一 六月三日師團は軍命令に基き再び歩兵聯隊を基幹とし之に MGs 特編
聯隊等を編入部隊として編成改正を行ふ、爾後屢次に互り經理、衛
生、獸醫等將校以下兵員の補充により現在迄の各種戰鬥に於て極度に
減耗せる兵力は概ね充足し得たるも所謂各兵種の寄合世帯にして加
之兵器彈藥極度に減少し各大隊と饒 70 180 4 5 4 1 5、MG
3 1 5 TA 一門 RIA 1 1 2 門と言ふ弱勢にして校以下素質及裝備極度
に低下しあり

三十二 師團は軍命令に基き六月一日與座附近陣地占領に關する命令を下達
し概ね左記要圖第七の如く陣地を占領せしむ

三十四 六月十一日師團長に對し軍司令官より感狀授與せられ之を各部隊に

(其の寫し別紙要旨の如し) 傳達す

六月十二日頃迄に於る各部隊の行動概ね左の如し

1 歩兵第八十九聯隊

イ 六月五日敵は東風平村北方友寄附近に進出し同七日遂に東風平
に進入す

六月九日頃より敵は益々正面の兵力を増加し強壓を加ふるに至
れり聯隊各部隊又連日連夜晝間防禦夜間斬込等の奮戦力斗に依
り敵は至大の損害を興へ戦果大なるものあり

2 歩兵第三十二聯隊

イ 六月四日自隊九百餘は編成改正の整備並陣地の強化に努む

ロ 六月十日 321 新に配屬せられ聯隊長は之を予備とす

ハ 敵主力は當初 43 正面に進出し聯隊正面に對しては敵現出せざり
し所時日の経過に従ひ遂に東風平、志多伯方面より賀敷、潮平

方面に迂回進出す又武富波平附近にも進入す

二六月十日我軍陣地前に敵戦車現出激烈なる戦斗開始せらる

ホ同十二日に至り戦車を伴ふ敵の攻撃は愈々熾烈となり各正面と

も激斗を交へ戦果大なるものあり將兵の志意極めて旺盛なるも

前述の如く装備極めて不十分なる爲之を徹底的打撃を加ふる事

を得ず誠に遺憾とする所なり殊に國吉方面に敵の重點正面にし

て其戦斗は凄惨を極めたり

歩兵第二十二聯隊(Ⅲ欠)

依然眞壁附近に於て予備線あり

三十五 六月十三日以後敵の攻撃は各戦線に亘り極めて熾烈を極め大なる戦

果を收むると共に我損害又極めて大なるものあり

師團は同十三日 32i の正面の重大性に鑑み Ⅲ 32i の占領する眞榮里陣地

を 22i に交代せしめ 32i の正面を縮少戦力の強化を圖る目的を以て夫々

處置する所あり同十三日より同二十三日迄に於る彼我の状況左記要

圖第八の如し

六月十三日より戦斗終了迄の各部隊の状況概ね左の如し
1. 歩兵第八十九聯隊

六月十五日敵は遂に其の一部を以て八重嶺岳I與座岳の中間地帯
Iを突破せり其の兵力戦車を伴て約二中隊なり聯隊は概ね新垣附
近に於て十九日聯隊長以下殆ど全員戦死せり

2. 歩兵第三十二聯隊

I六月十三日師團命令により右第一線たるII陣地を²²¹に移譲しIII
をしてIの右翼に連繫し陣地を占領せしめ且其の他一部の配備
を變更す

ロ爾後全線共に將兵の勇戦敢斗に依り能く現陣地を確保し志氣極
めて旺盛なり

ハ六月十七日午後敵は主力を以て左翼²²¹正面を突破し中街道方面
より眞榮里に進出すると共に73高地の²²¹本部を突破し³²¹本部陣
地を包圍するの態勢を示せり

ニ六月十八日より各大隊共敵の重圍下最後の一兵に至る迄連日能
く激斗を續け多大の戦果を収めたるも死傷極めて大なるものあり

爾後聯隊本部陣地は戦車十數輛を有する優勢なる敵の攻撃を受
け連日之を撃退し多大の戦果を収めたり聯隊正面は最後迄突破
せられざりしも²²¹の全滅に伴ひ左側背に猛攻を受くるに至り同
二十二日夕遂に敵の重圍を受け各第一線大隊との連絡を絶つに
至れり

3. 歩兵第二十二聯隊

I六月十三日²²¹と交代後遂次敵の攻撃は激烈の度を加へ三月十
七日に至り主力を聯隊正面に指向す、聯隊は極力之が撃退に努
め多大の戦果を収めたるも我に兵器彈藥既になく僅に各隊二、
三の小銃あるに過ぎず殆ど全員戦死し全面的に陣地を突破せら
れ聯隊本部又重圍を受け聯隊長以下殆ど全員戦死せり

三六師團長は敵の攻撃急にして既に通信機關杜絶せられ組織的統一指揮困難なる現狀に鑑み六月二十日左記要旨の訓示を爲し部下を戒むる所あり

訓示の要旨

師團は茲に組織的通信機關破壊せられ統一的指揮不可能の現狀に鑑み各部隊は現陣地附近を占領し最後の兵に至る迄敵に出血を強要すべし苟も敵の虜囚となり恥を受くる勿れ最後の忠節を全ふすべし隣接部隊と合流するを妨げず

三七六月二十三日各部隊間と師團司令部との通信連絡杜絶し統一的指揮不可能となり部隊の各個戦斗となる

三六六月三十日眞榮平西側甲江城師團司令部洞窟に於て師團長自決す

第二十四師團主要職員表

職名	階級	氏名	名	期別	摘要
師團長	中將	雨宮 巽		26	20630 戦死
參謀長	中佐	本谷 義雄	34	同	
參謀	少佐	苗代 正治	6	同	
同	同	杉森 貫	49	同	
兵器部長	同	小野 芳植	10	同	
經理部長	中佐	小澤 辰二	32	同	
軍醫部長	少佐	都留 元		同	
獸醫部長	中佐	石垣 誠一		同	